



三教帝喻
下

書仁
1053
8





三教童喻下卷

目錄

- 鷹ハ餌ても穂ハつまず
- 朱にまじはまバ赤くみふ
- 同床お來ふ
- 笑ふ門は福來ふ
- 果報を知らず



○ 必^しを捨て^て世^を浮^う心^を瀬^せに有^あ

○ 情^{なさけ}のさ^いら^う

○ 親^{おや}の心^{こころ}子^こを^をに

○ 雨^{あめ}あつて地^ちを^をまる

○ 所^{ところ}を^をなきま^ま

○ 半^{はん}のま^まが^がぬ^ぬこ^こ心^こ

○ 命^{いのち}の義^ぎは^はま^まつて^て輕^{かる}

○ 良^{よき}藥^{やく}果^はに^に苦^{くる}

○ 鼠^{ねずみ}を^を捕^とつ^つぬ^ぬこ^こ

○ 故^こ々^々と^と綿^{わた}を^をか^かる

○ 義^ぎ理^りと^と禪^{ぜん}

○ 人^{ひと}小^こ一^{いち}を^をせ

○ 祐^{すけ}こ^こ小^こ刺^さ

○ 麻^あを^を追^おふ^ふ捕^とめ^めの^の山^{さん}を^をえ^えに

○ 頭^{かしら}剃^そり^りい^いん^んを^を剃^そま^ま

○ 七^{しち}夜^やる^るて^て人^{ひと}を^をが^がへ

三教童喻卷下

三教童喻卷下

非得

鷹ハ餓テモ徳ヲ食ス

鷹ハ餓テモ徳ヲ食ス
義ハ行ハハサメテモ義氣堂々たるヲ強
キモ一ニなり渴シテモ盜泉ヲ水ハ飲モ執ケ
テモ惡キヲ陰ニ不忌ム小類ハ一ニ義者
乃イサメナク凡ソスル者天ヲ諫ム小ニ及テ強

諫して用いざる時を身退く是はるる事と
 うや凡何変ふて二夜に免るる一とるる二夜
 小及んでいり免るる一がうきこれに佛の教を三
 度と云ふやうき一佛のやうある人ふても再
 三朝拜する時心中おのづから怒りおこさるる
 也故に諫言をふ一余はおろく愛情深き
 妻の余まで失ふて路をかりもいふ
 ちて君に清くば改め給ひなば臣は死に就け

足るぬおと愛憎して手おこす人々強
 諫をてに君用ひ給はざる時を身退き二君
 はは(も)閑居かゝる貧窮をい(と)る不義
 の實をいさばるる野(を)めまば自殺す
 なるいふてを穂ははますと云ふてこれ
 凡て鳥をう飼ふ及ぶ時ハ其虫を喰ふ
 腐肉をむくはる鷹の如く(飼死)及ぶや
 い(と)て其虫腐肉をいふ不及穀類す

ら食ふに此談をいひさぎしう添き申
 くなう亦人ふる老親に悪変を諫る
 子数度ふ及び用いさる時いせいかく親に
 悪ふ唯いな亡を共申すふが孝ふれ
 たりとやわをひくみふ老其親に
 言き変を承く親に言きそのは皆親
 をわろく思ふよりおる親に言き変を
 人ふとふく承ふ老を孝とて入るれ

年ふんふれ

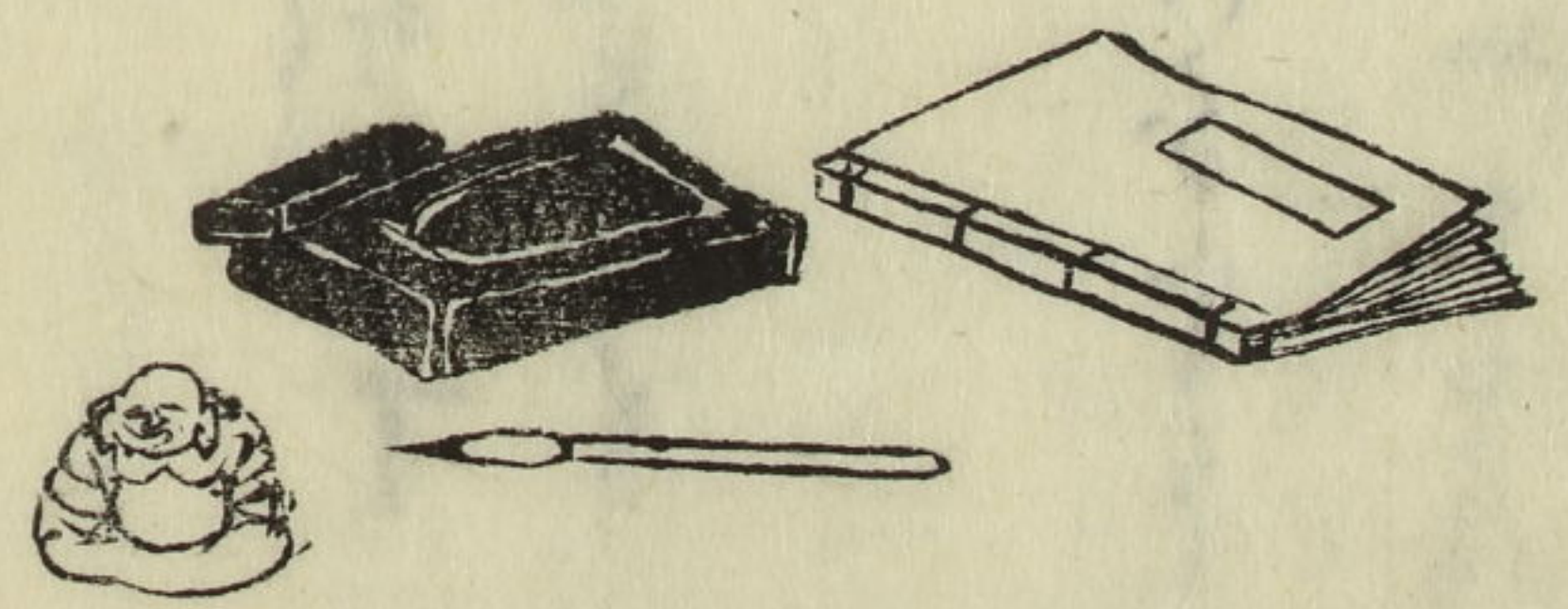
○戦場ふて君の馬前小打死あす
 忠臣より諫言け臣忠義とぞれ

ふん

忠孝にふふ余がとほふれ
 世間の人れいはいやとふ

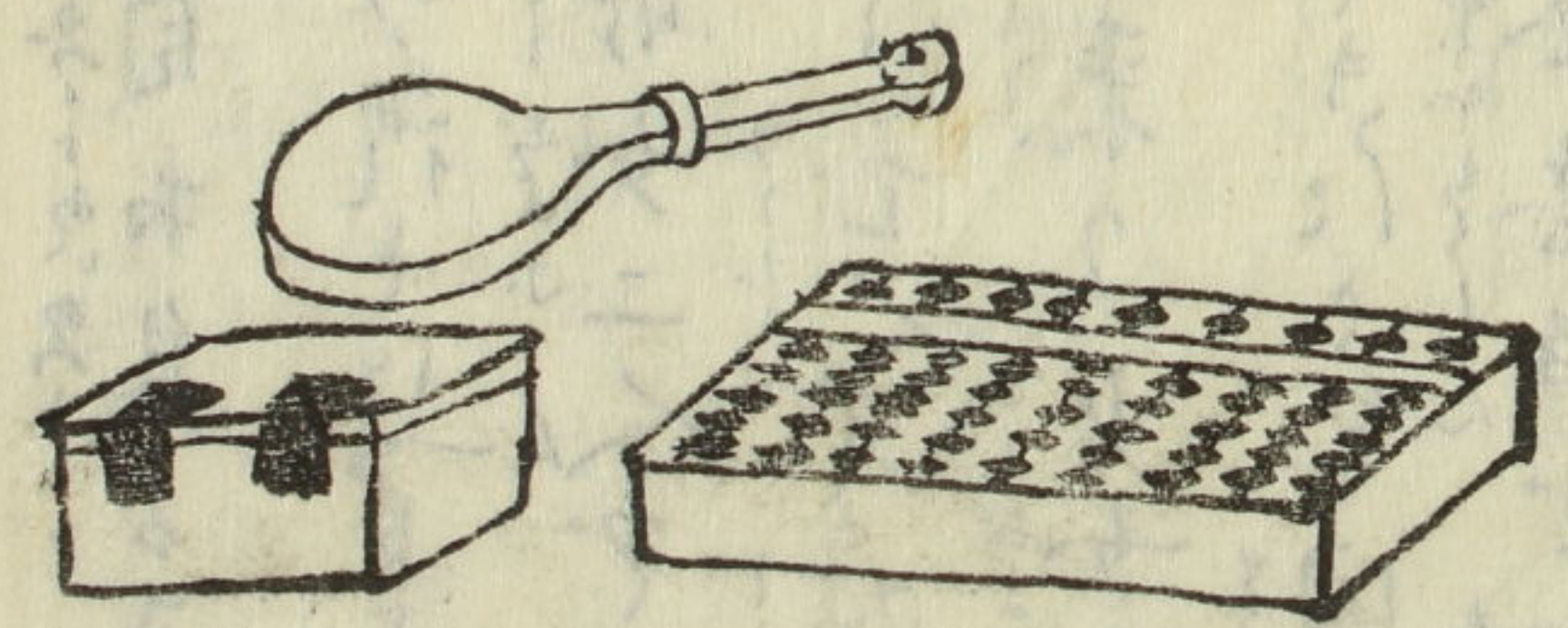
朱のまゝにれど赤くある

言曰人依善惡友
不可誣應麻中逢
賢愚元來依親育
幼巧言令色不人



父母の教へによりて
善くあり悪くあるなり
なにごとぞ

親の愛はまじき
ゆるすのまじきやうぞ
むせざるなり



同氣相求

此詩を人心乃おかんて 自お集るる意より
 て牛ハ牛は馬と馬づれといふ小大
 お似る事と老若男女二人で雜り集
 るて居るに老人ハ自れとて人乃取小
 若ういふ若き者乃取り来り少女と少女
 接ふは是れいふ同ときたる同字お求
 ふおふて故ふ名將を必忠臣を親しむ愚

將を多く侍人を寵す 所謂やう氣家
 志願入おなづうとふやうに自れはおふ
 いおおやう取らるる人乃曰一家
 仁あまば一國仁と興一一家讓あまば一國
 譲りをおこす。詩文は志せを詩文乃友
 集りおあふ志せば友人乃友来るか如く
 若人を得んと思ふ先や身を好む
 うんれ

三教道一
知ふ門ふ福来る

急悲正直
トミマウトキハ

財寶基
ギンモノノキ

家業不怠
ウヤノシラズヤルハ

出世基
イサツセウノキ

家内和順
ウチノトキニ

銀昌礎
ギンサウノイソ

内外柔和
ウチノトキニ

相續基
ツグツグノキ



福
フク

人正
ヒトタダ

業
ウヤ

福
フク

親
オヤ

家
ウヤ

義
ギ

福
フク



果報ハ森てまう

このこゝろに なるやうに
 此謗を只果報ハ森てまうと おもはせけるやうに
 心はちんいあゝるゝ何ぞ森てみよの果報ハ
 来るまゝんや 時ぬ 撞とけぬとらるゝやく不 解
 しく 生れ利ハるゝ夫天ハ 幸善禍悪とあれ
 は此謗を 朝ハるゝ おうて 家業を つゝめ 仁心を
 けりこゝ 目と 怠とて 果報ハ 来るを 恥と
 みて しいる あゝかゝる 悔て しかん せの 死



身とてくくやうにけりも有

かんめんいつうまにう
十九年忠信う名を

のふまに

いんせとやうな人

のようい

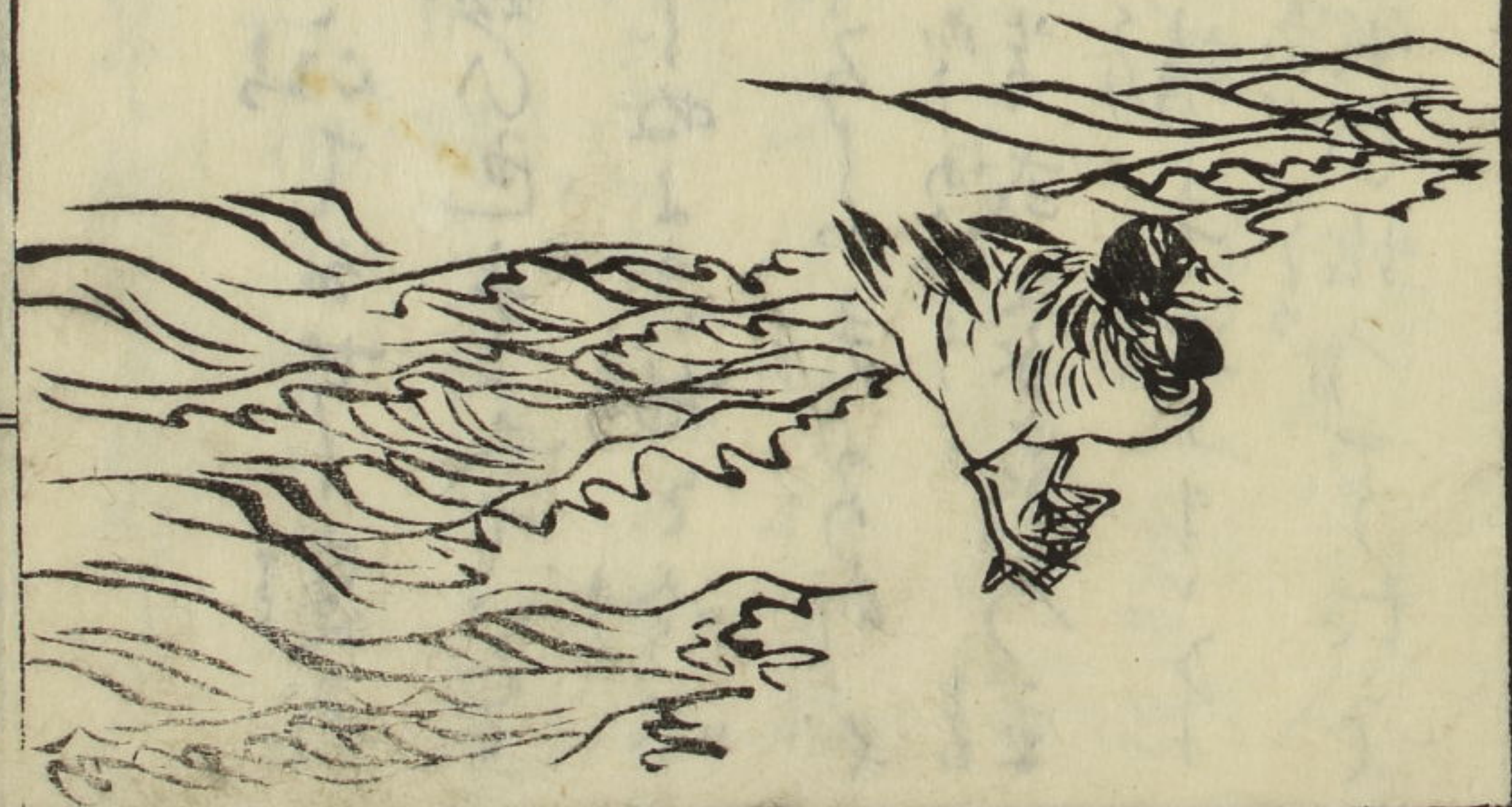
はよふ

のさい

とやう



イントクラホドコストキハゼンクワラ
布施陰徳得善果
ゲントクラホトコスギハレユゲンクワシヨロ
施頭徳衆歡頭果
ジンギチウカウアニムオレカラニヤ
仁義忠孝豈空哉
ツイニジフク子ニミテベシクワエタリ
終十九年得善果



情乃びいそ

情乃罪科といふは、いそ係切を以てせし、あま変入
 却て妨とあり、あま変を誤る、あま類ひ也、あま半とていふ
 病家へは、あま毒を以て、あま毒はなぬ、あま木を吟味
 ぬ、あませし、あま病人の性、あま合ふ、あまやま、あまあり、あまく
 なる、あま類ひ、あま皆情乃罪科、あま肯或、あま豪家乃主
 人千金を出し、あま傾城を身請、あまて思ふ、あまま、あまし、あまし
 樂、あまい、あまろ、あまが年月を経、あまふ、あま吟ひ、あま始、あま入、あます、あまに、あまそ

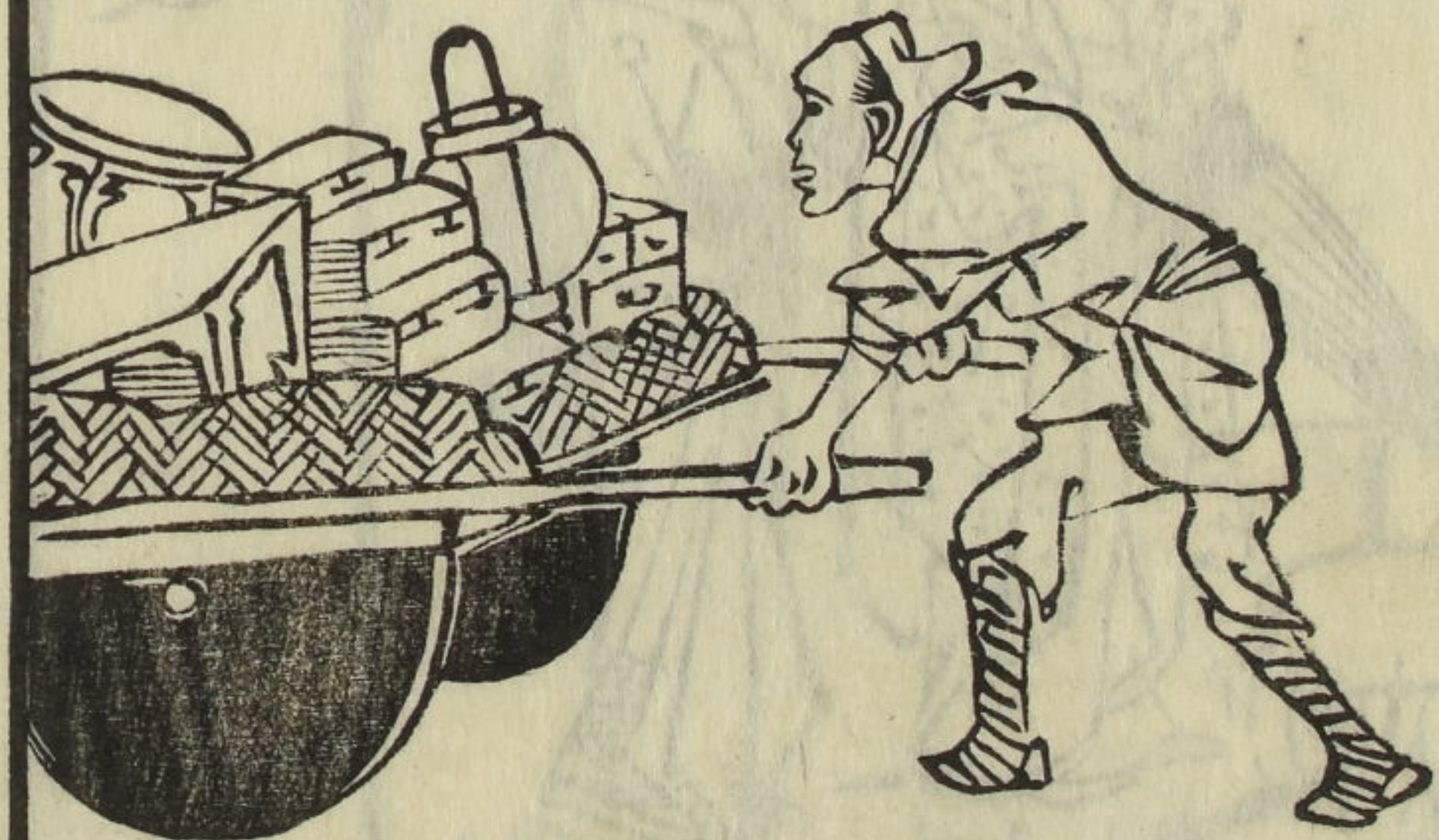
樂、あまし、あまま、あまら、あまう、あまが彼家、あま一日、あま比出入、あま入、あま何某、あまハ、あま五人
 の、あま家、あま入、あまう、あまあ、あまろ、あまが彼主人、あま出入、あま入、あま何某、あまが、あま変、あまを、あま思
 ひ、あま出、あまし、あま彼を、あません、あませ、あまつ、あまあ、あま老、あまよ、あまて、あま高、あま愛、あまと、あま情
 を、あまむ、あまし、あま殊、あまよ、あま今、あまに、あま定、あまま、あまる、あま書、あまと、あまも、あまな、あまれ、あまを、あま彼
 は、あまふ、あま妻、あまを、あまつ、あまる、あまあ、あまん、あまよ、あまと、あま何、あま来、あまを、あま吟、あまひ、あまし、あませ、あまし
 始、あま終、あまと、あま吟、あまし、あまれ、あまて、あま千金、あま入、あま傾、あま城、あまは、あま衣、あま類、あまを、あま道
 具、あままで、あまつ、あまり、あまて、あま只、あま貴、あまふ、あま変、あまを、あま花、あま主、あまと、あまく、あまは、あま収、あまび
 何、あまろ、あま思、あま慮、あまと、あまあ、あま昔、あまい、あまし、あまて、あま朝、あま言、あま樂、あまし、あま入

憂^あし^る何^{なん}城^{しろ}は世^よ常^{じょう}をま^まと^と更^{さら}故^こ不^ふう
 締^しりて^て後^ごも^も賣^う方^{ほう}も^も不^ふ勝^{しょう}手^てに^にあり^{あり}終^つよ^よ
 家^け財^{さい}まで^{まで}を^を賣^う拂^{はら}ふ^ふや^やに^になり^{なり}一^{ひと}人^{にん}是^{これ}
 誅^しは^は情^{じょう}を^を罷^{ばい}科^かする^{する}一^{ひと}只^{ただ}世^よふ^ふと^と入^いる^る一^{ひと}
 と^と此^こ外^がに^にある^{ある}老^{ろう}い^いふ^ふふ^ふ才^{さい}を^をか^かへ^へる^る遠^{とほ}
 き^き慮^{りょ}を^をする^{する}面^{めん}を^をふ^ふこ^こを^を
 絶^つて^て絶^つて^てこれ^{これ}を^を家^けが^がつ^つう^う歩^ほ
 後^ごり^りな^なら^らけ^ける^る罷^{ばい}科^かと^とぞ^ぞは



親心子心

雖怡諸行無常
 理恩愛難那
 子故闇日夜
 困若皆為子
 正謂親心子
 不明



親心子心

親心子心

世の中に

不孝者

あつて

せまひ



雨少つゝ地こまる

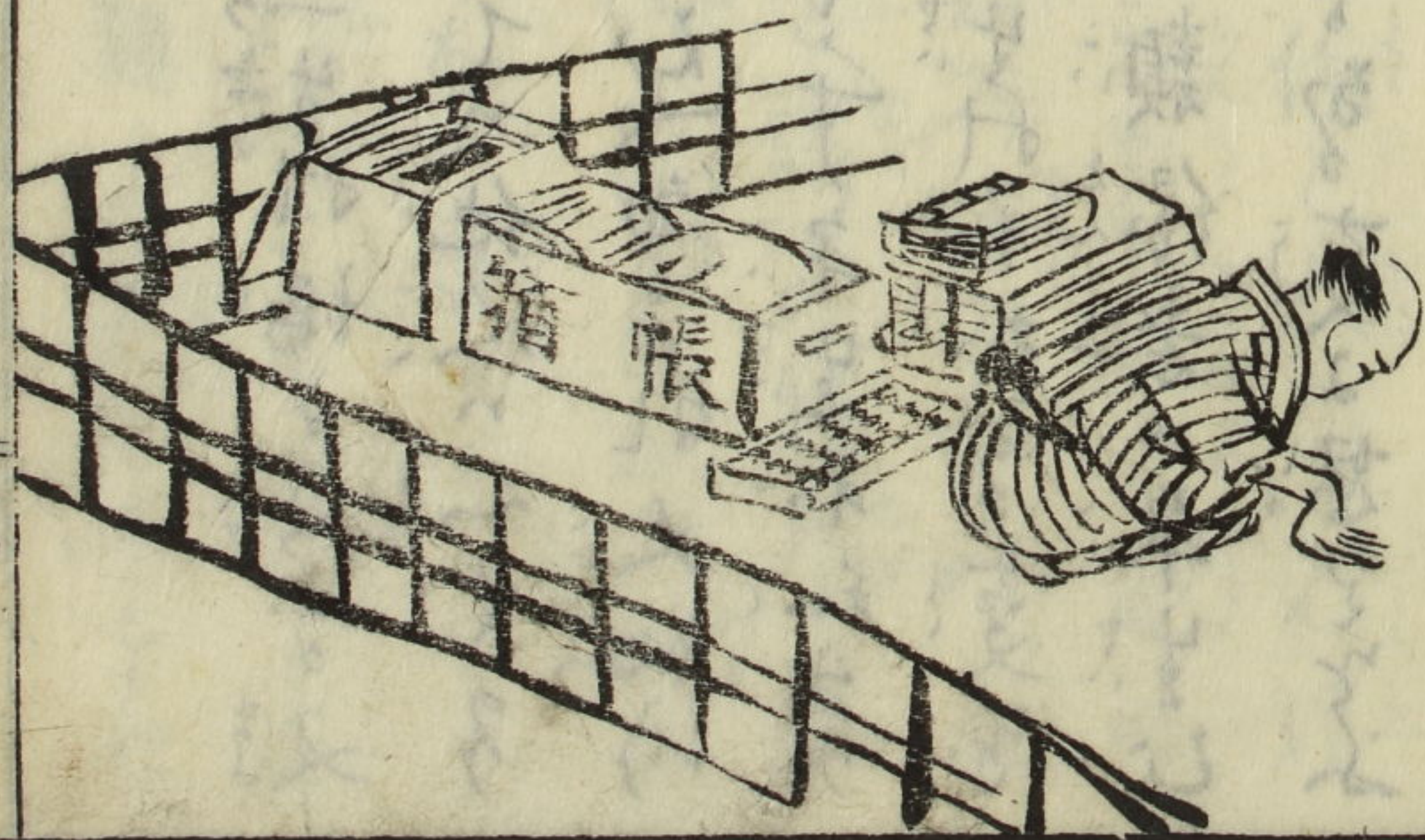
都て手馴れ必多損
始無尊積功可尊
有損失遂成目利
一有耻辱徹心根

ちよこころを
らまてふんぶる



人さうを
かきけり

あまうまて
さんていふが
徳さう
かまあふ
やまやあふ



身にかきう

死になきよりとて死一生の場は又
と病死の時は中んて他人の事より
小あねとて中とありむるれ大切
場は玉を親類を第一とす平生不和
とてとて中んて平生不和あり
はそ居れまじ故小親類縁老ハ平生
はましくおとぎ変えいさある変は怒り
は

親類縁老の交り絶え大なる得
違ひなり一戦國の昔親類縁老敵味
方とふふとて親類入情をふく義
は亡び忠は死一或を功を譲るの教
やう一況平大平代は生まれて飽
で喰ふい暖は着ていさある変は
を中て交り絶え親類入さる失すふ
はどやまき家と親類より是を中け

て立列^{とちり}すにんむいふあしそくめん^{そくめん}す
 ふい人をあひお續^{つづ}をあらしむるが是^{こゝ}親^{おや}
 類^{るい}ふそあそし又正月^{またしづき}を睦月^{しづき}とふと正
 月^{しづき}三えれそめとそ年^{とし}入るめ月^{しづき}のはしめ
 日^ひれそめあはれはるそ疎^{そと}遠^{とほ}る縁^{えん}老^{らう}る集會^{しうかい}
 して睦間^{むつかん}敷酒^{しきしう}ふるそ年^{とし}笑^{わら}ふすなり
 此^{こゝ}月^{しづき}を一月^{いしづき}といふ正月^{しづき}多^{おほ}なる正月^{しづき}と
 睦月^{しづき}又とむつそ月^{しづき}ともいふそ一年^{いしづき}中^{ちゆう}

り交^{かう}ふる交^{かう}ふそそそりそ親類^{しんるい}と
 お互^{あひたひ}ふあそいふそそそりそそ
 て身^みのあそいそそそそ

所^{ところ}うそふの他人^{たにん}よりそ義利^{ぎり}とそ
 ゆふまそいそとそ親類^{しんるい}
 そ語^{こと}そびそつそ他人^{たにん}のあそいそ
 所^{ところ}うそふそはそりそなる

半ハまじグまこや

慎應慎怙氣嫉妬
 慎應慎蜜婦不義
 慎應慎虛言惡
 口慎應慎短慮
 氣隨

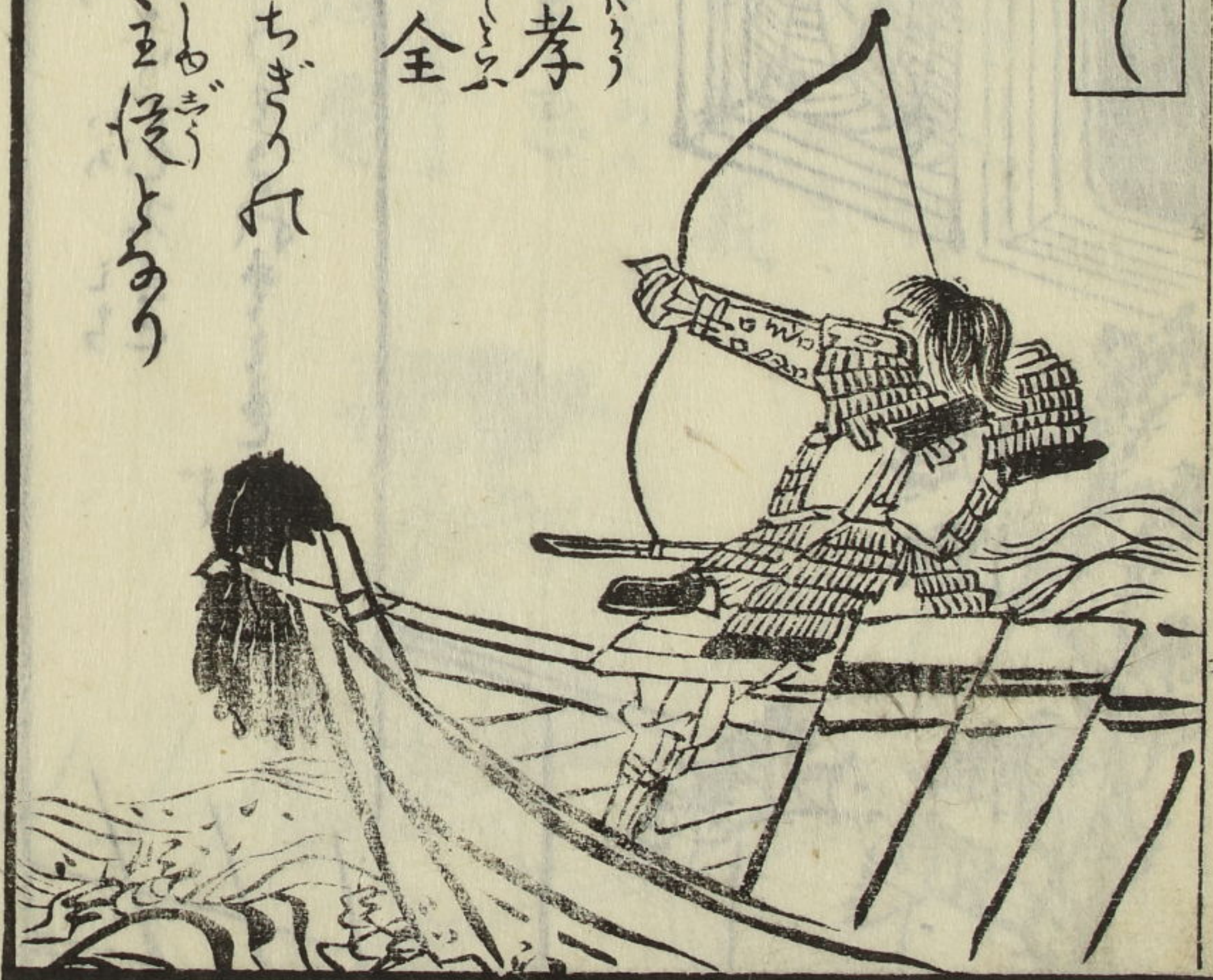


人々
 慎應慎短慮
 氣隨

命ハ義よりつゝ輕し

主従有三世
因縁親子一
世終天年
事君死忠有家孝
是謂應忠孝義全

これら三つはちぎられ
あれどこそ主従とあり



親子とやいふ

うま
けき
出
出
君ふ
忠や
えん



良薬口小苦

此喻も良薬は苦くして吞ぐれば病を治能あり忠言は耳に逆ふれば身家を脩ふ益なりとの禁言なり其苦又美味くも油煎き金も悪きならんをうすく面白きれとつくりして身苦くあり此を亡きに似ふ此時小玉ても良薬をちりながら飲し吾変へらぬ面白かぬが沙羅に面白なり

いつても老智を生じ身を治免家を治るに玉係孔子曰良薬苦於口利病忠言逆耳利於行といふ又俗は粉を舐すと舌に肉はユエをぬくは甘く言を以て文を其計小陥いまらる老耄すかどくけ良薬の論を出しておめしその元年生おん得変ふて哉

鼠取猫凡うき

賢者頭愚

遂本望

愚者頭智

苦其身



長者雜費

劣分限

貧者雜費

勝分限

今浪小自由

はねく小自由

あやう



故郷の錦をさる

故郷の錦をさるるを誇り他國に居て
出世して古里へ帰るに花美をさるる多し
人は見せて人をさるるやまゆめんと
いふ事あり
とあるる一巻の讀の意をさるる遠い
なんよれにふる老他は奉公して出世
古里に帰る小親は出世をえせて親の
心を
ほろいほの孝子入道也出世するまで
路

乃費へまけまのいふにるわん
て自由の身とありあが古里に親族
らにふるを孝け道なり
不歸故郷如衣錦夜行誰知之者
名於後世以顯父母孝之終也
漢書曰富貴
孝經二揚

後撰集の中
紅葉をわけはすきは錦さ
しとあると人やすらん

義理と禪

やうやうと云ふも
 養父養子舅姑嫁
 おおこころいこころ
 親子兄弟小舅参
 主従内黨作和順
 唯在禮義堪急三



不和のそと

そとふいり

中へかき

人きり入る

和順の義

入る堪ふ

トの時和順

とて



人よつせ

凡世ある人よ癖入かき拙かゝ一王齋小馬入
 癖入王福時小児を養ふ癖あり杜預は傳什
 癖入癖入いろあり善癖有りきとせ有可笑
 き癖有いやきありむさき癖こいつありいまり
 きつとまきまいあり其外投くつ人よ善癖
 とありきとあふおふて是を信く平生人得
 て善を取つと捨る時といつる所徳を

得る人よつとふ方とせといえる、因に人
 乃いやとあふとせ誰とせいやあるをわし書
 好む癖ありとるもとせ古物と好む癖新地を
 集りもとせなり字書は癖は嗜好入病入とあり
 病ありとて療治せばいせき拙なり是は業
 が癖ありといひて改めらる病の時は一病なりと
 ち捨て同し病の時を醫を過つたはとこれ
 ば悪き癖も病同くで療治せられはづらんや

三教童子
三教童子

神道有賞罰不知
佛法有悟道不知
主親有大恩不辯
金銀有威德不知

大恩乃人れ恩日と知
孝はつら
不孝とて
ハ珠れとて



三教童子

世

康と追ふ捕りし山を不_レ見

康と追ふ捕りし山を不_レ見
を利欲は迷ひて只其利欲のふくまひて居
るが故は道理の支なり又康と追ふ老い
只康のふくまひて居る故は山を風景を
らびられし事なり昔唐土に錦を市に
販く老わたり或時一人の男被_レ綿を取て逃
去まり盗人なりと追ふ終るる綿を元

康と追ふふくまひて居る見居るにそれと思
まば盗取を強盗なりと方なりといひられ
びと老るる思ひ見て居る変をぬどわ
只わきしと思ふ綿の目おわたりとこそ
とがて是等これ康と追ふ老山を不_レ見
又志す所なり只先入交のと思ふなり時を
承る門を通るをくらけり一言れりいふ
おんせどいふゆるるが如く或は老き男女

ひきふてよりたひ
 よそをれはち
 める変とていふ
 かも眼をうし
 の変とていふ
 孝とていふ
 な麻とていふ
 と見ふは同じ



生おろそか
 情しむとて
 よそ



三教蓮翁下
頭剃りんを剃

此誘ひ墨衣きててん大侶小を劣
もる変をたてく世の中の人平日佛と信
つて慈悲心ぞ行ひ入大は達いまは人
又も神さふし入法いそけ朝夕小供物
そとけをいそあやをいのふ人これと
ていふあんなりあんなあを先ふな止
直と字うりき身うけいそやうまほし

此類いそ頭せらんうんと剃きとふ
なりふ

慈鎮和尚の歌

何ゆゑに捨るぬをとりしを

とていふくちとふくちとふくちと

菅家の歌

こゝろたまこころうきにあひまは
いのびやうと神やまうん

此二首の言誘入意はすかあふふれん
ん又紫野一休禪師管家の言をん
しふふ

こころにまふれさた、ないあは
まらぬやうこそうふふめ

ううー
ふふ

七度尋て人ふく

此世話うんを拙を失ふ時、急連る人さう
ふ変ふれふいすめなん拙を失ふ時のね
そ盗れ、彼老う取、又、注、う
び、や、あ、う、い、自、ら、な、て、人、さ、う
してんちゆへふ尋ねる、一、年、忽、ち、変、を
い、出、て、後、も、品、入、内、う、出、る、時、は、そ、う、い
ふ、け、あ、う、ふ、一、故、は、先、ん、を、あ、つ、え、う、い、を

三孝圖

三教童喻下卷終

文政三歲^{庚辰}八月發行

京寺町蛸藥師

伏見屋半三郎

江戸日本橋中通新右門町

前川六左衛門

大阪傳馬町

河内屋得兵衛

日新町西口砂場隣

海部屋勘兵衛

日堺筋長堀橋北詰東

大和屋四郎兵衛板

書林



